

平成6年(1994年)2月12日
南岸低気圧による大雪
(大阪府などで大雪)

～ 「自らの命は自らが守る」 社会を支える取組 ～

大阪管区気象台



大雪による交通障害が多数発生。人的被害も多数。
(高速道路で通行止め多数、新幹線や他の鉄道、航空便も多数運休、欠航。転倒や交通事故により負傷者多数)

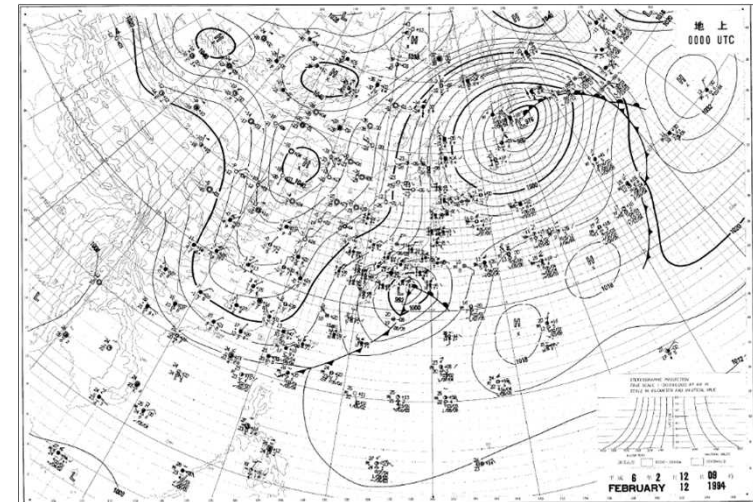
【概要】

平成6年2月11日から12日にかけて、東シナ海に発生した低気圧が発達しながら日本の南岸を通過した。このため近畿地方では、大阪府や兵庫県などで11日夜遅くから12日昼前にかけて大雪となった。

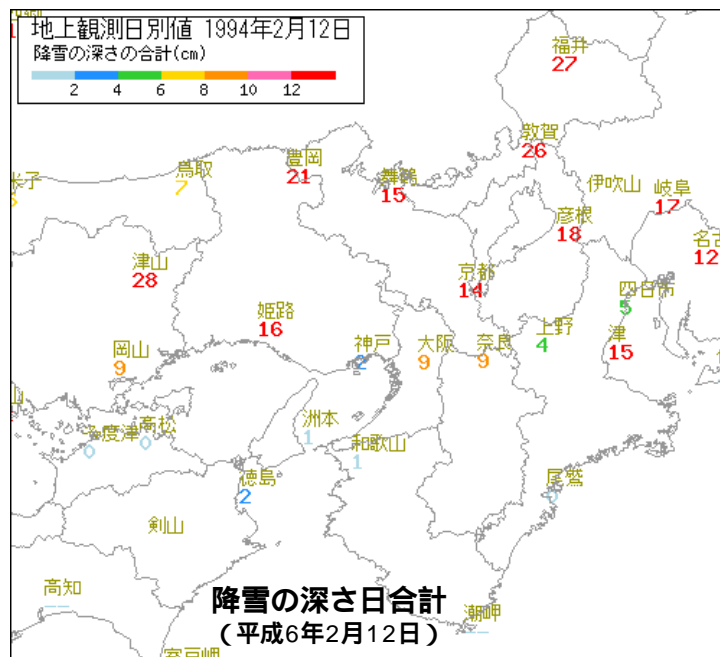
大阪府と兵庫県の気象官署における12日の「降雪の深さ日合計」は、大阪で9センチ(極値順位4位、統計期間：昭和28年1月～)、姫路で16センチ(極値順位2位、統計期間：昭和28年1月～平成15年2月)となった。

この大雪により、12日から13日にかけて近畿地方では高速道路の通行止め、新幹線やJR在来線、私鉄などに徐行運転や遅れが発生し、大阪空港でも多数の欠航が発生した。また、歩行者の転倒による負傷や交通事故も多数発生した。

被害は当時の新聞記事等から収集したものです。



地上天気図
(平成6年2月12日09時)



雪がもたらす災害

積雪害	鉄道や道路に雪が積もり交通障害をもたらす。また交通障害に伴い、生活・企業活動への影響を及ぼす。農作物への被害など。
風雪害	吹雪によって視界が悪くなり、交通障害や事故をもたらす。
雪圧害	積もった雪の重みで家屋・施設が倒壊したり、果樹などの枝が折れて損傷する被害。
雪崩害	斜面の雪の一部が崩壊してもたらされる災害。
着雪害	湿った雪が送電線や通信線に付着して、その重みで断線したり、鉄塔や電柱などが倒壊する被害。また樹木等にも湿った雪が付着して、その重みで枝が折れて損傷する被害。

統計等は2021年1月6日現在です。